

# 国立国会図書館



## シリーズ 被災地の図書館は今

新たな貴重書のご紹介 第46回貴重書等指定委員会報告  
重要文化財指定資料紹介 『釋氏往來』

2012.8  
No. 617

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の閉室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

CONTENTS

- 02 レコード販売目録 大正・昭和のレコード会社いまむかし  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 シリーズ 被災地の図書館は今
- 05 震災、その後——新たな連携に向けて
- 09 東北大学附属図書館ツアー 被害の実態と事前の準備を学ぶ
- 11 宮城県内市町村図書館等に見る東日本大震災からの復興の現状
- 16 新たな貴重書のご紹介 第46回貴重書等指定委員会報告
- 26 重要文化財指定資料紹介 『釋氏往來』

15 館内スコープ  
情報セキュリティ対策の取り組み

28 本屋にない本  
○『コインの水族館』

29 NDL NEWS  
○平成24年度国立国会図書館長と都道府県立及び  
政令指定都市立図書館長との懇談会  
○平成24年度国際子ども図書館連絡会議  
○法規の制定  
○おもな人事

31 お知らせ  
○国立国会図書館データベースフォーラム  
○国立国会図書館関西館開館10周年記念講演会  
(山室信一氏・陶器二三雄氏)のご案内  
○国際子ども図書館講演会「天沢退二郎さんに聞く  
—21世紀の宮沢賢治—」  
○平成24年度レファレンス研修  
○デジタル化資料の館内追加提供およびインターネット  
公開について  
○公立図書館への歴史的音源配信の提供を本格的に実施  
○本の万華鏡(第10回)「大正デモクラシーとメディア」  
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

# レコード販売目録 大正・昭和のレコード会社いまむかし

山本 俊亮

1903（明治36）年、日本で初めて円盤型の輸入版レコード<sup>1</sup>が発売されました。その後、アメリカ人輸入商F.W.ホーンが1907（明治40）年に日米蓄音機製造会社、1910（明治43）年に日本蓄音器商会（後の日本コロムビア）を設立し、アメリカのコロムビア・レコードとの提携関係を活かしながら、国産のレコードと蓄音器の製造を始めました。それからまたたく間に時枝商店、帝国蓄音器（後のテイテク）、日東蓄音器、東洋蓄音器（写真1）、アサヒ蓄音器（写真2）などのレコード会社が次々に設立されました。

1920年代には、日本蓄音器商会が東京・神奈川のレコード会社を次々と買収していきます。それに対抗するように、大阪でレコードの新譜制作と販売を行っていたのが日東蓄音器でした<sup>2</sup>。日東蓄音器は関西のレコード会社では当時最大手であり、1920（大正9）年の設立以来5年間で2000種の自社制作レコードを次々に発売します。特に長唄、清元などの新譜を多く発売しました。録音嫌いで知られる清元の五世延壽太夫や長唄の吉住小三郎ら古典芸能の名人を、音質の良さと多額の吹き込み料の支払いで説得し録音を承諾させたことは当時の新聞にも取り上げられています<sup>3</sup>。

また、日東蓄音器は、『ニットータイムス』というユニークなレコード販売目録を出していました（写真3）。レコード販売目録とは、新譜発売の宣伝として各レコード会社が発行していた自社の新譜案内と目録です。レコード会社以外にも販売店が独自に発行していることもありました。レコード販売目録には、レコード番号<sup>4</sup>（レーベルに記載されたそのレコード固有の商品番号）や、作曲者、演奏者などが掲載されています（写真4）。

日東蓄音器の『ニットータイムス』は、宣伝用の冊子にとどまらず、レコードの聴き方や吹き込み者の談話、自社の新譜の意義・解説などを豊富に掲載していました。読者からの投稿欄もあり、顧客とレコード会社との相互コミュニケーションツールになっていたともいえるでしょう。他社の販売目録は多くてもせいぜい10ページくらいですが、『ニットータイムス』の1922（大正11）年12月号は、31ページもありました。

しかし、ビクターなど外資系レコード会社の日本進出、ラジオの登場や日本蓄音器商会との競争による疲弊のため、日東蓄音器は次第に経営状態が悪化していきます。『ニットータイムス』も内容が乏しくなり、遂には新譜案内だけになります。そして1935（昭和10）年には、兵庫県西宮市に本社があった内外蓄音器商会（写真5）から発展した太平蓄音器に吸収合併され、大日本蓄音器（写真6）となります。販売目録も、1936（昭和11）年1月号から、『タイヘイ』と『ニットータイムス』をまとめて一冊で発行されました（写真7）。

その後、日東蓄音器以外のレコード会社も吸収・合併を繰り返し、外国資本をバックに持たないレコード会社はほとんどが吸収されるか、消滅してしまいます。特に関西地方では、東京圏を上回る数のレコード会社が生まれましたが、そのほとんどが過去の歴史の一部となってしまいます。

レコード販売目録を現在の視点から眺めてみると、単なる新譜案内ではなく、レコード会社の歴史や栄枯盛衰を知る手掛かりのひとつにもなってくるのです。

（やまもと しゅんすけ 利用者サービス部音楽映像資料課）



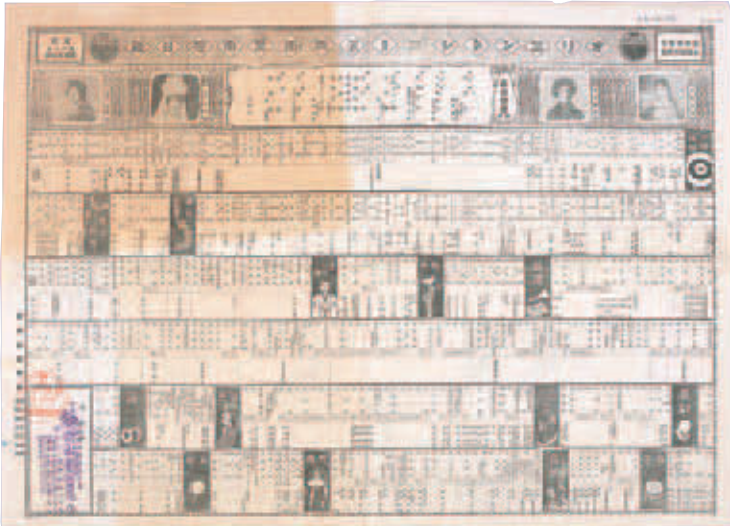


写真1 『オリントレコード両面盤目録』（日本蓄音器商会オリント工場）  
 <請求記号 YM2-186>  
 京都の東洋蓄音器（株式会社と合資会社）大正6年頃に合資会社が株式会社を吸収し、その後、日本蓄音器商会の傘下に入り日本蓄音器商会オリント工場になる。東洋蓄音器時代には、尾崎行雄の演説レコードも出した。

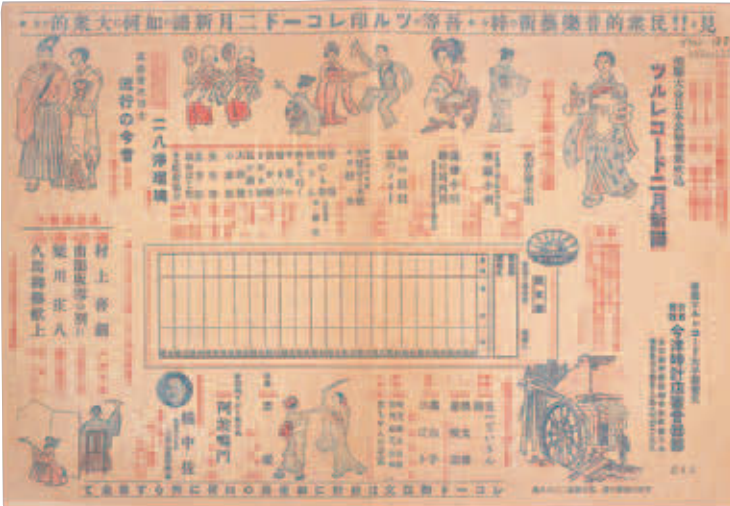


写真2 『ツルレコード 二月新譜』（今津時計店蓄音器部）昭和5年2月  
 <請求記号 YM2-188>  
 東京・神奈川と、関西地方がレコード産業の主な中心地であった中、アサヒ蓄音器は名古屋で制作販売を行っていた。アサヒ蓄音器はツルレコードというレーベルを出していた。



写真4  
 『ニットータイムス 第7巻3月号』（日東タイムス社）昭和2年3月  
 <請求記号 YM2-96>  
 11頁 一部を拡大

ニットーレコードの吉住小三郎のいくつかの長唄は、「国立国会図書館デジタル化資料」の「歴史的音源」で聞くことができる（館内のみ）。  
 [一例]  
 長唄 賤機帯（三）  
 （正体なきこそか）  
 ニットーレコード  
 商品番号：1422-A



写真3 『ニットータイムス 第二巻 拾二月号』（日東タイムス社）大正11年12月 表紙  
 <請求記号 YM2-96>



写真5 『貝印 内外レコード 六月号 月報』（内外蓄音器商会）表紙 <請求記号 YM2-99>



写真6 『タイヘイレコード 十二月新譜目録』（大日本蓄音器）昭和10年12月 表紙  
 <請求記号 YM2-137>



写真7 『タイヘイレコード ニットーレコード 正月新譜目録』（大日本蓄音器）昭和11年1月 表紙  
 <請求記号 YM2-137>

- 1 「レコード」と「レコード会社」の表現はいろいろあるが、ここでは便宜的に78回転（一部は80回転）や45回転、33と1/3回転の円盤型音盤をレコードと総称する。またその製作会社をレコード会社とする。
- 2 日本蓄音器商会の鷲印のニッポノホンレーベルに対し、日東蓄音器は純国産であることと新譜販売のスピード感をアピールするため燕印をレーベルとしていた。
- 3 『経営百態 蓄音器 芸人の争奪戦』『東京朝日新聞』1925年11月15日 朝刊 4頁  
 同じ内容が『経営百態』（東京朝日新聞経済部編 日本評論社 1926年）にもあり、「国立国会図書館デジタル化資料」で閲覧できる。  
 (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1018879/84>)
- 4 国立国会図書館のNDL-OPACでは、レコード番号で検索し、所蔵を確認することができる。

参考文献  
 ●岡俊雄著『レコードの世界史 SPからCDまで』音楽之友社 1986年 <請求記号 KD355-22>  
 ●倉田喜弘著『日本レコード文化史』岩波書店 2006年 <請求記号 KD355-H13>  
 ●コロムビア50年史編集委員会編『コロムビア50年史』日本コロムビア 1961年  
 \*「国立国会図書館デジタル化資料」でご覧になれます（館内のみ）  
 ●森垣二郎著『レコードと五十年』河出書房新社 1960年  
 \*「国立国会図書館デジタル化資料」でご覧になれます（館内のみ）  
 ●渡辺裕著『日本文化モダン・ラブソディ』春秋社 2002年 <請求記号 KD151-H1>  
 ●山崎整記者連載記事『関西発 レコード百二十年 埋もれた音と歴史』『神戸新聞』1997年1月1日～1999年3月10日 <請求記号 YB-32>

※戦前期のレコード販売目録は、東京本館新館1階音楽・映像資料室で、電子式複写した原本代替資料（モノクロ）をご利用いただけます。





## シリーズ 被災地の図書館は今

東日本大震災から1年以上が過ぎました。東北の沿岸部でも内陸部でも、多くの図書館で大規模な被害が発生し、現在も建物の改修、資料の復旧等の作業が進められています。自身が復旧の過程にありながら、同時に、関係者の尽力によって住民等への図書館サービスを積極的に展開し、被災復興における図書館の存在意義を示しています。このシリーズでは、国立国会図書館の被災復興支援に関わる活動と被災地の図書館の現状をお知らせし、これからの図書館被災復旧、復興支援の方向性を考えていきます。

5月27日、28日に仙台で「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」として、図書館政策フォーラム2012「東日本大震災とMALUI連携」、「東北大学附属図書館ツアー — 被害の実態と事前の準備を学ぶ」、「東北を訪ねるバスツアー — 支援と受援の現場を巡る」が行われました。今回は、これらイベントのレポートと現地図書館員の方からのご報告を通じて、今後進展の期待される震災アーカイブ事業と宮城県内の図書館における被害と復旧の現状についてご紹介します。

1-2 南三陸町図書館、3-4 名取市図書館どんぐり子ども図書室（5月28日「東北を訪ねるバスツアー」にて撮影）

## 震災、その後 —— 新たな連携に向けて



図書館政策フォーラム2012「東日本大震災とMALUI連携」の様子

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経過し、被災地の図書館では復興に向けた様々な取組みがなされています。国立国会図書館でも、震災発生後から、被災した資料の救済や復興に必要な資料の複製物提供や資料相談等、様々な形で被災地の図書館



大滝 則忠 国立国会図書館長

支援を行ってきました。昨年度から開始した東日本大震災アーカイブ構築プロジェクトもその大きな柱の一つです。

平成23年7月29日、国の東日本大震災復興対策本部により「東日本大震災からの復興の基本方針」が決定されました。その中で、東日本大震災に関する記録・教訓を国全体として網羅的に収集、保存し、公開体制を整備し、誰もがアクセス可能な一元的に活用できる仕組みを構築し、国内外に情報を発信することが掲げられています。国立国会図書館では、この仕組みを「東日本大震災アーカイブ」と呼ぶこととし、「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ構築プロジェクト」を立ち上げました。

支援を行ってきました。昨年度から開始した東日本大震災アーカイブ構築プロジェクトもその大きな柱の一つです。





東北大学災害科学国際研究所「みちのく震録伝」  
<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/>



今村 文彦 教授  
東北大学災害科学国際研究所 副所長

東日本大震災アーカイブの収集対象は、以下のよう  
に幅広いものになっています。

- ①東日本大震災に関する被害実態の記録や復旧お  
よび復興に関する記録
- ②公的機関やNPO・ボランティア団体等の民間  
機関が主体となった活動の記録
- ③今後の防災・減災につながる記録
- ④東日本大震災による原子力災害の記録
- ⑤過去に発生した地震・津波災害等の記録
- ⑥東日本大震災以降の国内外の政治、経済、社会  
等の動向に関する記録等

また、形態としても、図書や雑誌、論文とい  
った刊行物だけでなく、官民のウェブサイト、写真・  
静止画像、映像・動画、音声、ファクトデータ等、  
その種類は多岐にわたります。保有機関も様々で、  
国の各府省、被災地をはじめとする各自治体、大  
学や学会等の研究機関、NPO・ボランティア団体、  
各種報道機関など、多くの機関で各種記録、情報  
を持っています。もちろん、組織・機関だけでなく、

個人の記録、情報も多数存在すると思われま  
す。これらの膨大な記録等の収集を、国立国会図  
書館だけで実現することは難しく、国の各府省や同  
様の取組みを行っている東日本大震災関係のアー  
カイブ機関等との協力・連携が必要不可欠です。

平成24年5月27日、「図書館総合展フォーラム  
2012 in 仙台 東日本大震災とMALUI連携」が  
東北大学で開催されました。MALUIとは、M (博  
物館)、A (文書館)、L (図書館)、U (大学)、I (企  
業)を表しており、本フォーラムは、これらの機  
関の連携の可能性と各機関による震災アーカイブ  
構築の推進について考察するのにふさわしい機会  
となりました。

国立国会図書館からは大滝則忠館長が「MALUI  
連携に向けて－国立国会図書館としての役割」と  
題した講演を行いました。東日本大震災への対  
応と復興支援を巡る取組みとして、国会活動の補  
佐、被災した資料の救済、被災地の図書館支援に





高田 正行氏  
ヤフー株式会社 R&D 統括本部  
FE 開発2本部 部長



YAHOO! JAPAN 「東日本大震災 写真保存プロジェクト」  
<http://archive.shinsai.yahoo.co.jp/>

ついて報告し、東日本大震災アーカイブ構築プロジェクトの紹介を行いました。また、東日本大震災の復興支援に取り組む活動を通じて見えてきたこととして、地域の歴史的・文化的資源の蓄積、記録の共有、今後の防災・減災に向けて活用される研究成果や各種ファクトデータ、新たな記録の共有を進める企業との連携等の重要性、さらにはMALUI連携の役割について講演しました。

また、事例報告として、今村文彦氏（東北大学災害科学国際研究所）から「震災と大学－東北大学の取組から」、高田正行氏（ヤフー株式会社 R&D 統括本部）から「Yahoo! JAPAN 東日本大震災からの考察」、長坂俊成氏（防災科学技術研究所）から「誰のためのアーカイブか？～連携の前に、それぞれが何をするか？～」と題した報告が行われました。

今村氏の報告では、震災の記録を作成し後世に残すことで経験を継承することの重要性、東北大学災害科学国際研究所によるアーカイブプロジェ

クト「みちのく震録伝」の事業内容等について紹介されました。

高田氏の報告では、震災直後の交通インフラ・電力に関する情報提供や被災地からの発信に対するヤフーの支援活動、「東日本大震災写真保存プロジェクト」の事業内容、アーカイブ事業における民間企業と公的機関の役割等が語られました。

長坂氏の報告では、被災者自身による記録の作成・活用の重要性、「311まるごとアーカイブス」の事業内容、震災アーカイブの利活用等について話されました。

その後、事例報告者を中心としたパネルディスカッションが行われ、国立国会図書館からも中山正樹電子情報部長が参加しました。震災アーカイブ事業の継続性や国の機関を中心に各機関の果たすべき役割等について活発な議論が行われました。特に、国の機関としての国立国会図書館に寄せられる期待は高く、各府省等の国の機関で保有する記録の保存についての呼び掛け、震災記録の



防災科学技術研究所「311 まるごとアーカイブズ」  
<http://311archives.jp/>



長坂 俊成 氏  
防災科学技術研究所 社会防災システム  
研究領域 プロジェクトディレクター

作成やデジタルアーカイブの構築にかかる技術およびノウハウの支援、各震災アーカイブ機関で保有するコンテンツのインターネット上での公開に関するガイドラインの策定等について貴重なご提案をいただきました。

国立国会図書館では、東日本大震災アーカイブを構築するに当たっては、まずは既存の枠組みを確実に実施することが重要であると考えています。つまり、納本制度の徹底周知を図り、刊行された資料を網羅的に収集することと、公的機関のウェブサイトやデジタルアーカイブの網羅的な収集を、当館にしかできない使命です。その上で、既存の枠組みだけでは収集できない記録、情報についても幅広く収集し、保存していく予定です。そのためにも、MALUI各機関とも密に連携、協力を図りながら、国全体として東日本大震災の記

録等を網羅的に収集し、永続的に保存することを目指しています。また、他機関で保有している東日本大震災に関する記録や各種情報についても、その所在を明らかにし、一元的に検索できる仕組みを構築していきたいと考えています。

さらに、震災アーカイブ事業に取り組んでいるものの、運営維持が難しくなった機関で所有する震災アーカイブのコンテンツについても、将来的には国立国会図書館の東日本大震災アーカイブで引き継ぐことも想定しています。

国立国会図書館では、各地に分散している東日本大震災の記録、記憶を一元的に活用できる仕組みを構築することで、国内外の多くの方に使っていただき、被災地の復興支援のお役に立ちたいと切に願っています。また、後の世代にも残していくことで、今後の防災・減災に貢献していきたいと考えています。

(電子情報部電子情報サービス課

次世代システム開発研究室)



## 東北大学附属図書館ツアー

# 被害の実態と事前の準備を学ぶ

中島 尚子

「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」の企画として、5月27日午前中、主催者である東北大学附属図書館の見学ツアーが行われた。

見学開始にあたり、担当者から諸注意があったが、その最後に「ツアー中、地震があった場合、書架から離れ、指示を待って退避するように」という言葉があったのは印象的であった。

震災から1年以上経過した今もなお、内部には改修工事の足場が生まれ、エレベーターは使用できず、壁にはコンクリートの剥落、ひび割れ痕、天井には排水管破損による漏水でできた染みがあるなど、被害の大きさを物語る痕跡が随所に見られた。当時は、カードボックスやマイクロキャビネットが傾倒し、大量の資料等が落下、散乱する

など多くの被害が起きたということであったが、既に通常サービスができるまでに書架や資料は復旧され、日曜日にも関わらず多くの学生が通常通り図書館を利用していた。大きな被害があったことが信じがたいような落ち着いた風景であり、ここに至るまでの関係者のご苦労がどれほどであったかを思うと胸に迫るものがあった。

一方、東北大学附属図書館では宮城県沖地震の発生予測に基づき、震災以前から耐震対策を行っ



東北大学附属図書館内部の様子



グラスファイバー強化プラスチックの耐震壁



書架上部の連結



ていた。景観を保ちつつ耐震強度を増すため、グラスファイバー強化プラスチックのブロックを積み上げ耐震壁とする工法を採用、柱への炭素繊維の巻き付けによる強化、書架の倒壊防止のための上部連結、建物の開口部への鋼管ブレース設置など、さまざまな耐震対策が効を奏し、施設の崩落や人的被害等を回避することができたのである。

また、非常放送システムが故障したことを受けて、そこかしこに非常連絡用のメガホン、トランシーバーが設置され、他にも懐中電灯、ラジオ、非常用持出袋、ヘルメット等の備品も配備されている。ブラウジングコーナーは館内で唯一飲食で



きる場所として自動販売機が設置されているが、電源が使用できなくても中から飲み物、食品を取り出せる災害対応仕様である。

震災を実際に経験したからこそその細部にまで気を配った備えがなされており、まさに「備えあれば憂いなし」という言葉を実感させられるツアーであった。

図書館の入口付近では、「2011.3.11あの日から1年～震災の図書館を振り返る～」と題して、震災後の図書館の被害の様子を伝えるパネル展示が行われ、当時の状況を生々しく伝える一方、図書館の復旧に奮闘する学生ボランティアの様子、他大学からの応援、差し入れの写真なども紹介されていた。学生、職員などの多くの人々が図書館の復旧のために連携し、尽力されたことを知り、胸が熱くなった。

開館しながら改修工事を行うため、工事の終期は2012年末の予定とのことである。長い期間の復旧対応に奮闘し続ける関係者のご苦勞と熱意に心からの敬意を表したい。

(なかじま なおこ 総務部総務課)



# 宮城県内市町村図書館等に見る 東日本大震災からの復興の現状

宮城県図書館 熊谷 慎一郎

東日本大震災から1年余りが経過した。もう1年経ってしまったのか、というのが筆者の思いである。

図書館政策フォーラム2012「東日本大震災とMALUI連携」（「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」、2012年5月27日、図書館総合展運営委員会）が仙台で行われたことから見て取れるが、震災の記録を残そうという動きは、ここに来てより一

層活発になっている。

とはいえ、震災からの復興はまだまだ半ばであり、この4月から、筆者の勤務する宮城県図書館でも、災害復旧工事がようやく行われ、6月1日から7月2日まで休館した。休館期間中は、女川つながる図書館（女川町）でフィルムコーティング講習会を行ったり、山元町中央公民館・坂元公民館（山元町）の図書室リニューアルなど被災地域の図書館や図書室への支援を行ったりした。復興に向け



写真1 女川つながる図書館の様子（2012年3月23日撮影）

て、各地の図書館がそれぞれ歩み始めており、宮城県図書館としても、引き続き支援に当たりたいと思っている。

東日本大震災による宮城県内の市町村図書館の被害について概要を述べるとすれば、下記の2点であろう。

- 地震による被害により、震災以前の図書館サービス再開が困難になった図書館が多い。
- 津波による被災地域では、図書館が高台にあり浸水を免れたところがある一方、浸水域にあった館は被害甚大である。

震災から1年と少しが経過した2012年3月23日、女川町に女川つながる図書館が開館した(写真1)。女川町にあった生涯教育センター図書室は、震災によって全壊、全資料が流失し、12月から建物の解体が始まっている(写真2)。

女川町では2011年度内に生涯教育センター図書室とは別に絵本だけを集めた「絵本館」を創設する構想があったが、収集した図書は津波で全て流失した。震災後2か月あまり経った5月10日、日本ユニセフ協会ほかの協力もあって、全国から送られた図書を活用して絵本だけを集めた「ちゃっこい図書館」が女川第二小学校にオープンした。その後、図書室の復興をはかるべく、町内の勤労青少年センターにて準備作業を開始した。宮城県図書館では、何度も足を運び、主に、図書室運営にかかる準備の進捗確認や、運営にあたってのさまざまな相談に応じた(注1)。女川つ



写真2 解体工事中の女川町生涯教育センター(2012年3月15日撮影)

ながる図書館の開館によって、宮城県内全35市町村で図書館・図書室の機能が回復したことになる。

2012年5月1日。南三陸町図書館は、南三陸町総合体育館(ベイサイドアリーナ)2階へ移転開館した。2011年10月5日にプレハブを用いて、再開した南三陸町図書館の場所には、海外の金融機関からの支援で、生涯学習センターが建設されることになった。このため、プレハブを移設する必要があり、半年あまりでプレハブでの運営から次のステップに移行した。

震災からおよそ半年は、建屋の確保や資料の購入、書架の調達、移動図書館の運営など様々な相談に乗りながら、プレハブで図書館を再開するまでを歩んできただけに、思い入れがないわけでは





写真 3 (上)  
ベイスайдアリーナ  
2階へ移転した  
南三陸町図書館の様子  
(2012年7月15日撮影)



写真 4 (右)  
南三陸町図書館  
跡地付近  
(2011年7月28日撮影)

ない(注2)。だが、プレハブでいつまでも図書館を運営するわけではない。移転後は、プレハブの時に比べ、広く、明るい空間が利用できるようになったこともあって、利用者からは好評である(写真3)。

生涯学習センターが完成すれば、その中に図書館が再移転することになっている。津波によって甚大な被害を受けた図書館は、南三陸町のように、幾度かの移転を繰り返しながら、復興へ向けて歩いていくこともあるのだ。

津波による被害を受けた南三陸町や女川町では図書館で保存していた地域の貴重な資料が失われた。他県に見られるように、一部の資料が残っており、資料救済が可能、ということはない。全く失われてしまった(写真4)。冒頭で触れた「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」では震災記録のアーカイブがテーマだったが、南三陸町や女川町では、震災前までこつこつと収集し、保存してきた地域情報・郷土資料の再整備が大きな課題の一つであることは間違いない。

「図書館総合展フォーラム2012 in 仙台」ではシンポジウムだけではなく、「東北を訪ねるバスツアー 支援と受援の現場を巡る」も行われた。実際に現地へ行き、復興へ向けて歩んでいる図書館に触れるという主旨で、南三陸町図書館と名取市図書館を巡ったものだ。バスツアーには、宮城県図書館からも職員1名が参加している。当該職員は、震災当時、南三陸町内の中学校に勤務していた。彼は、ツアーの中で自らの体験を話し、また、南三陸町図書館のスタッフも当時の様子を話す時間があった。被災地のことが徐々に全国メディア

に載らなくなっている中、バスツアーのような企画は、人々の関心を惹起し続ける意味でも非常に重要だと思う。

被災した図書館は復興へ向けての歩みを着実に進めている。図書館は、被災地にあっても、「コミュニティの中核」として、人々が集い、「読書による癒し」を提供してきた。また、図書館には、その地域の「情報の拠点」となり、共同体の記憶装置として「アーカイブ機能」の発揮が期待される。こういった復興期に発揮できる重要な機能を備えているのだから、これを積極的に訴えていく必要があるのだと思う。これからは、被災した図書館の復興と同時に、その自治体の復興過程のなかでどのように図書館が位置づけられていくか、に注目していきたい。

(くまがい しんいちろう)

(注1)

女川町の図書室復興について、下記の文献を参照。

元木 幸市「女川町図書室 復興の取組：本の力でこころの復興を」『みんなの図書館』図書館問題研究会 編。(420) :2012.4. pp.35-42

(注2)

南三陸町図書館の再開までは下記の文献を参照。

熊谷 慎一郎「東日本大震災からの図書館の復旧・復興支援：宮城県図書館の役割」『情報管理』科学技術振興機構 編。54 (12) :2012.3. pp.797-807

## 情報セキュリティ対策の取り組み

昨年の秋、国の機関がサイバー攻撃を受けた事件が大きく報道されました。幸い国立国会図書館に対する攻撃は確認できませんでしたが、情報セキュリティ部会のメンバーとして「他人事ではないぞ、うちも気をつけなければ」という気持ちで事態を受け止めました。

国立国会図書館は2003年から組織的な情報セキュリティ対策に取り組んでいます。私の所属する情報セキュリティ部会は2009年に館の情報化を担う情報化推進委員会の下に設置された組織で、館内の職員と外部のセキュリティアドバイザーで構成されています。

日々の活動では、情報セキュリティに関するガイドラインの作成や、職員を対象としたセキュリティ研修の実施、図書館の情報システムにセキュリティ上の問題がないかのチェックなど、情報セキュリティ水準の向上に取り組んでいます。最近では、仕事に関するメールを巧妙に装った「標的型電子メール攻撃」について、職員が不正プログラムを仕込まれた電子メールをうっかり開いてしまうことがないように「不審メールの見分け方」の注意喚起を行いました。

また、不審なメールが届いた場合や、攻撃である可能性の高いインターネットからのアクセスを検知した場合には、情報を収集し、システムやネットワークの担当者と相談しながら対策



各課情報セキュリティ担当者向け説明会の様子

を行っています。

情報セキュリティ対策は館内だけで行っているわけではありません。内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）を中心に官公庁など国全体で情報セキュリティ対策を強化する動きがあります。国立国会図書館もNISCをはじめとする関連機関と情報交換をしながら、国の基準に合わせた情報セキュリティ対策のルールや体制の整備を進めています。

ニュースで報道されるコンピュータウイルスやホームページの改ざん、情報漏えいなどの事件は決して遠い出来事ではなく、国立国会図書館もいつ狙われるかわかりません。利用者が安心してサービスを利用し、私たち自身も安心して仕事ができるように、情報セキュリティ部会では国立国会図書館の情報セキュリティの維持管理に日々努めています。

（電子情報企画課情報化統括係 シーサー）



## 第46回貴重書等指定委員会報告 新たな貴重書のご紹介

国立国会図書館は、蔵書のうち、特に注意して取扱うべき重要な資料を「貴重書」「準貴重書」と定めています<sup>1</sup>。平成24年3月21日、古版本5点、古活字版2点の計7点を貴重書に、絵本1点を準貴重書に指定し、累計で貴重書は1,265点、準貴重書は790点となりました。

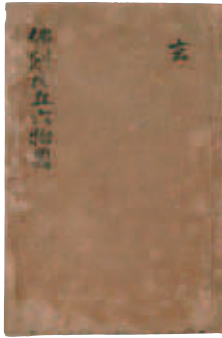
新たに貴重書、準貴重書に指定した資料についてご紹介します。

1 「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、館内の貴重書等指定委員会が行っている。



今回準貴重書に指定された [山の幸 下巻]・[海の幸 下巻] より [山の幸 下巻] 1丁裏～2丁表 (24・25ページに解説)

## 貴重書



### ぶっせいびくろくもつず 佛制比丘六物圖 1巻

<請求記号 WA6-92>

[(宋)釋元照撰]

[泉涌寺]

[寛元4 (1246)] 刊

1冊 大きさ23.5×15.6cm

泉涌寺版 書名は巻末による 書き外題(表紙左肩): 佛制比丘六物圖 函入り 袋綴(改装) 四つ目綴じ 無辺無界 毎半葉7行 毎行17字 注小字双行 版心「六物」 版心に丁付刻記が見える箇所あり 薄茶色無地表面紙(後補) 本文料紙:楮紙 巻頭「僧伽梨」「安陀會」の2図および巻末の刊語を欠く 虫損多 全面裏打ち補修済 表紙右上に「玄」と墨書、1丁表および最終丁裏に「曹源院」と墨書あり 印記: 普門院、且齋、三井家鑒藏、聴水壬戌以降所集旧槧古鈔、大正十二年所得古槧

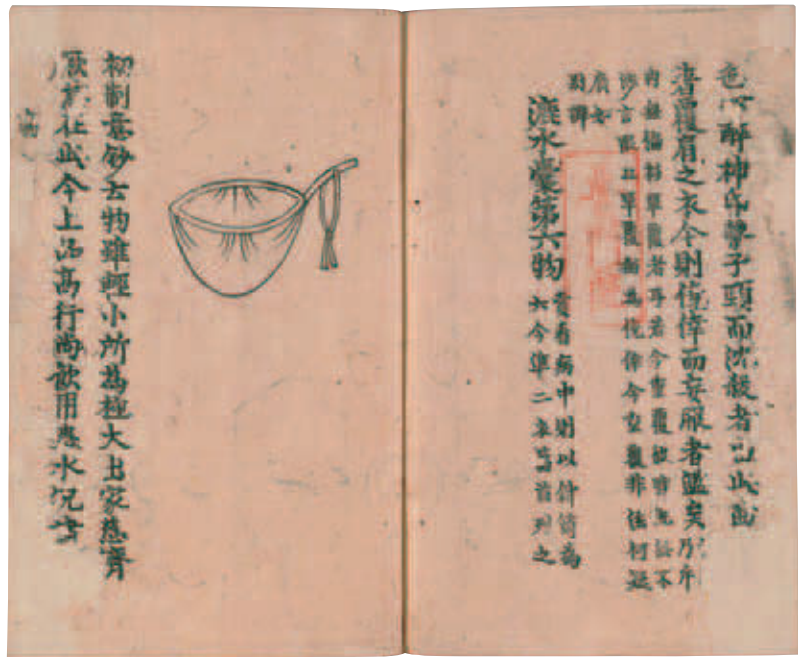
『佛制比丘六物圖』とは、比丘(仏弟子)が所持すべき六種類の衣や道具について図入りで解説したもので、寛元4(1246)年に京都の泉涌寺にて刊行されました。

本書で注目されるのは挿絵が入っていることです。挿絵入りの刊本としては、延応元(1239)年に刊行された『首楞嚴經』<sup>2</sup>の扉絵が現存最古のものとして知られていま

すが、本書はそれに次ぐこと、經典の扉絵以外では最古の挿絵入りの刊本であることから、出版文化史上、注目されています。

本書は、慶応義塾図書館(早印本、欠丁あり<sup>3</sup>)、東寺(やや後印<sup>4</sup>)、東洋文庫(後印<sup>5</sup>)にも所蔵されています。これらはいずれも両面刷の粘葉装で、雲母引きの料紙が使用されています。

国立国会図書館所蔵本は、巻頭の2図および刊語を欠きますが、慶応義塾図書館本と同程度の早印本と認められます。他の伝本とは異なり、雲母



『佛制比丘六物圖』 第六物 渡水囊(飲み水のゴミや虫を濾すために用いられたもの)の図

引きのない楮紙が使用され、袋綴に改装されています。蔵書印から、泉涌寺の隣寺である東福寺(普門院)に伝わっていたこと、蔵書家として知られる三井高堅<sup>6</sup>(1867-1945)が所蔵していたことがわかります。

2 上野国新田庄世良田刊。東寺、日光山輪王寺所蔵。

3 建長6(1254)年の移点識語あり。

4 表紙に「賢宝」と墨書あり。賢宝は、東寺の僧(1333-1398)。南北朝時代以前の印刷と推定される。

5 南北朝時代を下る印刷と推定されている。

6 新町三井家9代目。三井物産代表取締役社長、三井銀行取締役社長。





## 五味禪

<請求記号 WA6-93>

[室町前期] 印

1冊 大きさ21.0×13.6cm

五山版 書名は書き題簽による 第2種本(川瀬一馬著『五山版の研究』(日本古書籍商協会 1970年)による)の後印 袋綴 四つ目綴じ 左右双边 有界 白口 単黒魚尾(十牛圖挿絵部分は黒口、単白魚尾) 香色表紙(後補) 本文料紙:楮紙 全面裏打ち補修済 「信心銘」「證道歌」「坐禪儀」の巻頭に鼎形朱印あり 構成:三祖鑑智禪師信心銘 1巻 [(隋)釋僧璨撰]、永嘉真覺大師證道歌 1巻 [(唐)釋玄覺撰]、住鼎州梁山廓庵和尚十牛圖 1巻 [(宋)釋師遠撰]、坐禪儀 1巻 [(宋)釋宗頤撰]、入衆日用 1巻 [(宋)釋宗壽撰]

禅宗の著作「信心銘」「證道歌」「十牛圖」「坐禪儀」「入衆日用」の5点を収録した資料で『五味禪』と呼ばれています。

この中の「十牛圖」は、牧童が見失った牛を再び見出す過程を描いた10の図によって、禅の悟りの階段をわかりやすく示したものです。さきに紹介した『佛制比丘六物圖』が挿絵入りとはいえ、図と呼ぶのがふさわしいものであったのに対して、これは宋風の墨絵の版画として絵画的にも評価されており、中世における絵入り刊本の代表作の一つとされます。

『五味禪』は京都や鎌倉の五山を中心とした禅宗関係者に普及し、繰り返し出版されました<sup>7</sup>。川瀬一馬著『五山版の研究』<sup>8</sup>によると、鎌倉時代末期から応永26(1419)年にかけて8種の出版が確認され、大字本(第1種)と小字本(第2~8種)の系統に大別されるといいます。国会図書館は、このたび第2種本を蔵書に加え、貴重書に指定しました。第2種本は、南北朝時代初期の刊行と推定され、小字本(第2~8種)の中では、最古かつ最善とされるものです。これまで、京都大学附属人文科学研究所が所蔵する1点しか



「十牛圖」第四 得牛 (今回貴重書に指定された『五味禪』第2種本より)

探していた牛を捕まえることができたが、牛はまだ抵抗している。この場面で白牛を描くのは第2種本のみ



「十牛圖」第四 得牛 (『五味禪』第4種本より)

第2種本と同図だが、白牛が黒牛となっている



知られていませんでした。

国立国会図書館所蔵本は京都大学所蔵本よりも版面の磨滅が目立ち、後刷とみられます。ただし京都大学所蔵本とは、「證道歌」の第2～5丁の版が異なり、また、「坐禪儀」と「十牛圖」の順が逆になっている等の相違点<sup>9</sup>があり、注目されます。

なお、国立国会図書館は、本書の第4種本も所

蔵し、貴重書に指定しています<sup>10</sup>。新たな伝本が加わることによって、『五味禪』各種の版・刷の関係や製作事情について、さらに研究が進展することが期待されます。

7 「入衆日用」を除いた『四部録』として刊行されたものもある。

8 日本古書籍商協会 1970年刊。当館請求記号UM24-1。

9 このほか、京都大学所蔵本では「入衆日用」の紙質が他の箇所と異なるが、国立国会図書館所蔵本は「入衆日用」と他の箇所と紙質が異なるように見受けられないという相違点もある。

10 室町時代初期刊。当館請求記号WA6-35。



しつたんじき  
悉曇字記 1巻

<請求記号 WA6-94>

(唐) 釋智廣 撰

根来寺往生院

文安4 (1447) 刊

1冊 大きさ24.5×15.7cm

根来版 書名は巻頭および巻末による 刊記「文安四年丁卯十一月日 願主快寶 於紀州根来寺往生院開之」後印 粘葉装(両面刷) 無辺無界 每半葉7行 每行13字 注小字双行 版心「初(～[十]五丁)」茶色無地表紙(後補) 本文料紙:楮紙 扉墨書「悉曇字記」「圓政(梵字)」「吉祥院」(扉の四周に表紙を剥がしたと見られる跡あり) 巻末朱書「勢州朝明之郡山村寺西行院而朱黒點寫之 主理鏡(梵字)」朱墨筆書き入れあり 印記:弘文荘(帙)

本書は、サンスクリット語の文字(梵字、悉曇文字)の摩多(母音)と体文(子音)を解説し、その合成法を略述した書で、唐代の僧侶、智廣の

撰とされます。日本には大同元(806)年に空海が請来し、弘安3(1280)年に高野山で開版(出版)されたのをはじめ、繰り返し版を重ねました。

今回指定した本は、高野山から分派した根来寺で刊行されたもので根来版と通称されます。巻末に「文安四年丁卯十一月日 願主快寶 於紀州根来寺往生院開之」の刊記(左写真)がありますが、版面の状態から文安4(1447)年よりは後に印刷されたとみられます。

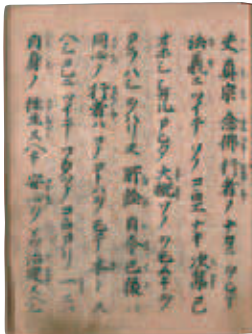
根来版の残存数は少なく、同版の所在は他に確認することができませんでした<sup>11</sup>。国立国会図書館所蔵本は安田文庫旧蔵とみられます<sup>12</sup>。



『悉曇字記』  
刊記

11 水原堯栄「根来版の研究」(書誌学1(6)1933.11)には熊本県人吉市願成寺の所蔵が紹介されているが、現在の所在は不明。

12 川瀬一馬「安田文庫古板書目(12)」(書誌学3(5)1934.11)に載る根来版『悉曇字記』と識語等が一致する。



おふみ  
[御文 第4帖]

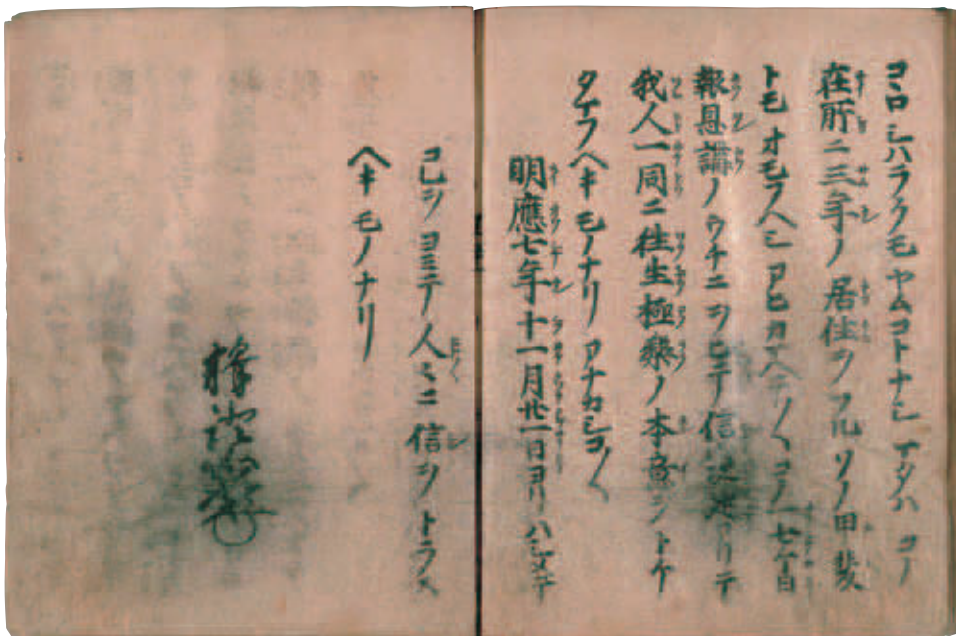
<請求記号 WA6-95 >

[蓮如著]

[室町後期] 刊

1冊 大きさ 26.9×21.5cm

本願寺第10世証如証判 袋綴 五つ目綴じ 無辺  
無界 每半葉7行 字数不等 漢字片仮名交じり  
本文字高22.7cm 紺色表紙 雲母引き料紙 五帖  
本の第4帖 文明9(1477)年1月8日の書簡より  
明応7(1498)年11月21日の書簡まで15通



[御文] 卷末  
最終行に「釋證如(花  
押)」の署名が印刷され  
ている

御文とは、本願寺第8世蓮如(1415-1499)が浄土真宗の教えをわかりやすく書いて門徒に与えた手紙形式の法語のことです。蓮如の死後、各地より御文の下付を本願寺に願ひ出るものが多くなったため、本願寺では、御文の中でも特に肝要で頒布するのに適したものを抜き出し、5帖80通の「五帖御文」として編纂しました。

御文がはじめて出版されたのは第10世証如(1516-1554)のときです。今回指定した本は、その五帖御文<sup>13</sup>の第4帖で、末尾に「釋證如(花

押)」と記されています。

漢字に片仮名を交じえた文章で、全ての漢字に振り仮名が付けられ、語句と語句との間隔を空けて句読点の代わりとする等、読みやすくするための工夫がみられます。室町時代以前に印刷された数少ない仮名交じり本の一例としても、貴重な資料です。

13 証如開版の五帖御文の5帖揃いは大谷大学博物館、鷲森別院(和歌山県)の所在が知られるのみ。



おふみ  
[御文]

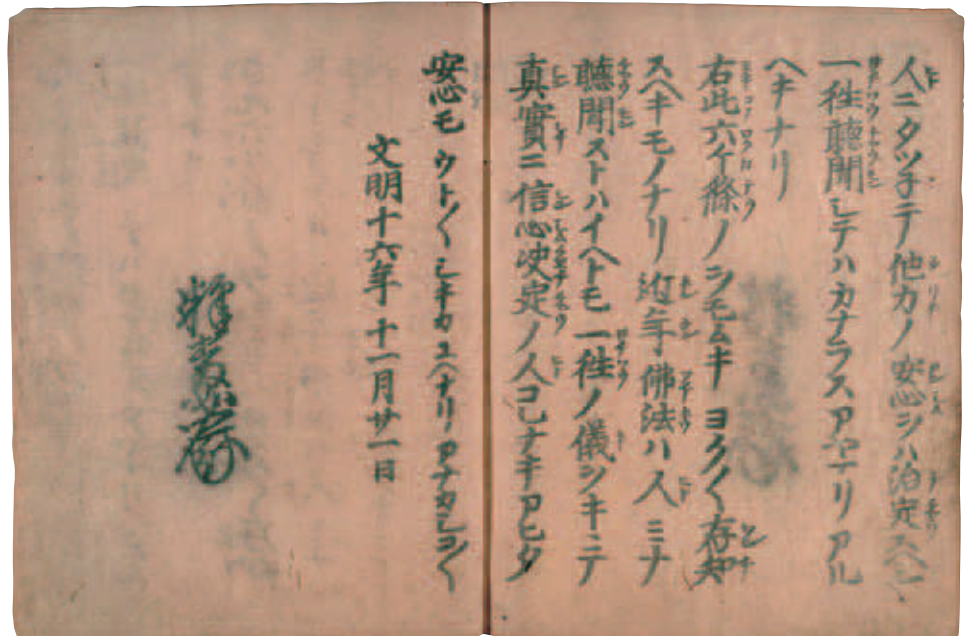
<請求記号 WA7-276 >

[蓮如著]

[室町末～江戸初期] 刊

1冊 大きさ 26.8×21.5cm

東本願寺第12世教如証判 袋綴 五つ目綴じ 無  
辺無界 每半葉7行 字数不等 漢字片仮名交じ  
り 本文字高22.3cm 紺色表紙(後補) 雲母引  
き料紙 単帖本 29通収録



[御文] 巻末  
最終行に「釋教如(花  
押)」の署名が印刷され  
ている。

御文には前述の5冊本の五帖御文と、五帖御文  
から何通かの御文を抜粋して編纂した1冊本の単  
帖本が存在します。本書は東本願寺派(大谷派)  
第12世教如(1558-1614)が刊行した単帖本です。  
末尾に「釋教如(花押)」と門主の名を記すこと、  
漢字片仮名交じりの様式は、証如版と共通してい  
ます。教如の単帖本は大谷大学図書館、同朋大学  
図書館などに伝存しますが、紙数や収録する御文  
が違っており、国立国会図書館所蔵本と全く同じ  
構成のものは確認されていません。

国立国会図書館は今回貴重書に指定した第10  
世証如版(前頁写真)、東本願寺派第12世教如版(上  
写真)のほか、第11世顕如(1543-1592)、東本  
願寺派第13世宣如(1604-1658)、西本願寺派第  
13世良如(1612-1662)開版の御文を所蔵してい  
ます<sup>14</sup>。通して見ることで、室町時代に初めて開  
版された証如の御文から江戸時代前期まで、御文  
開版の変遷を辿ることができます。

<sup>14</sup> いずれも単帖本。当館請求記号 WA6-85(顕如)、W8-N26(宣如)、W8-N25(良如)。





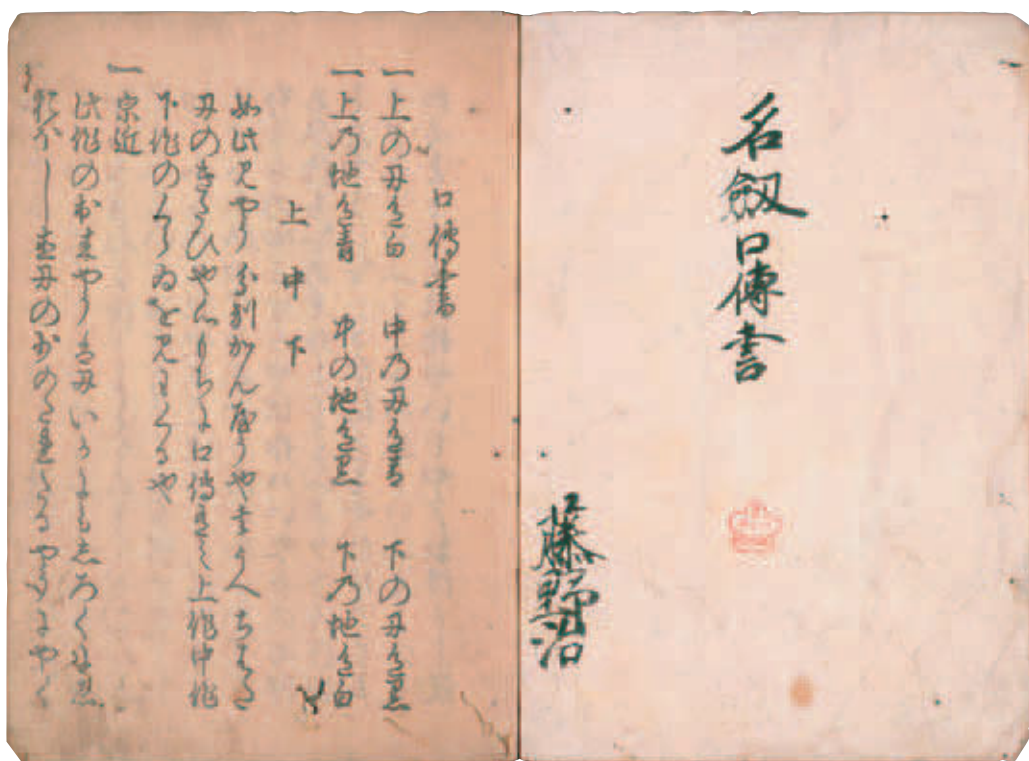
## 口傳書

<請求記号 WA7-277>

[慶長12 (1607) 以前] 刊

1冊 大きさ25.4×18.6cm

古活字版 袋綴 四つ目綴じ 無辺無界 每半葉11行  
毎行19字 漢字平仮名交じり 雲母刷模様原表紙 巻  
末に墨書識語「慶長十二年／霜月吉日／松田道以／久  
元（花押）／大窪忠二郎殿」あり 書き入れ「名劔口  
傳書 藤野治」（見返し）「改嘉永四亥歳／七月吉日／江  
州愛智郡千枝邑／藤野治郎右衛門什物」（後ろ遊び紙裏）  
「枝邑／藤野治」（裏見返し）あり



「口傳書」  
見返しと巻頭

本書は江戸時代初めに出版された刀劔について  
の書物で、木製活字を用いて印刷された古活  
字版<sup>15</sup>です。刊記はありませんが、巻末に「慶  
長十二年霜月吉日 松田道以久元（花押） 大窪  
忠二郎殿」と墨書されており（次頁上写真）、この  
本が慶長12（1607）年11月に松田道以より大窪  
忠二郎に与えられたことがわかります。他の伝本  
にも松田道以の同様の墨書が見られる<sup>16</sup>ことか

ら、松田道以が門人や弟子に与えるために本書を  
出版したと考えられます。

松田道以について、くわしいことは分かってい  
ませんが、刀劔鑑定家の本阿弥家は本姓を松田と  
いうことなどから、本阿弥光悦（1558-1637）に  
由縁の人物と推測されています。本阿弥光悦は江  
戸時代初期に書家・芸術家として活躍しましたが、  
出版文化史上では、「嵯峨本」と呼ばれる、光悦



【口傳書】  
卷末 識語

流の書体に雲母刷表紙や色替わり料紙を用いた美しい書物の出版に関わったことで知られています。本書に雲母刷模様の表紙が付されているのは、その関係をうかがわせます。

国立国会図書館所蔵本は、雲母刷模様の原表紙に、胡粉地の見返しを残しています。やや雲母が剥落しているのが惜しまれますが、400年前に作製された時の面影を今に伝えています。

- 15 文禄年間（1592-1596）から慶安年間（1648-1652）までの約50年間に活字を用いて刊行されたものを「古活字版（古活字本）」という。
- 16 川瀬一馬著『古活字版之研究』（増補版 日本古書籍商協会 1967年刊）参照。『古活字版之研究』は、「国立国会図書館デジタル化資料」で閲覧可能（館内のみ）。なお、本書とセットで刊行されたとみられる古活字版『本朝古今銘盡』（当館未所蔵）にも松田道以が記した同様の墨書が見られるという。



### 破邪禪集

<請求記号 WA8-18>

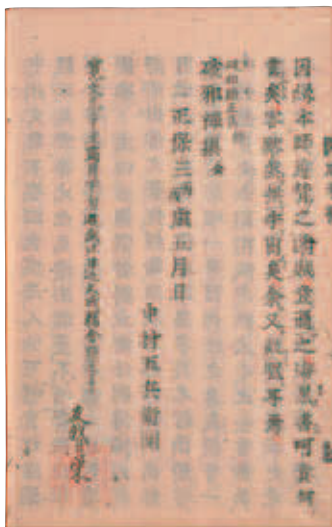
日捨 [著]

中村五兵衛

正保3（1646）刊

1冊 大きさ26.0×17.5cm

古活字版 書名は巻頭および巻末による 袋綴 四つ目綴じ 無辺無界 每半葉10行 每行18字 注小字 双行 版心「破邪禪一（～十）」 上下花魚尾 白口 栗皮表紙 巻末に「寛文元辛丑霜月下句遊武江牛込久成精舎點之畢 友我日榮」の墨書および「日榮」の朱印あり 巻頭書名脇に「イ本 破邪頭正集 禪教廢立并序」 巻末書名脇に「イ本 破邪頭正集 終」の墨書あり



【破邪禪集】  
刊記

身延山久遠寺（日蓮宗本山）の僧侶日捨<sup>17</sup>による禪宗批判の書です。序文から慶長13（1608）年成立したことがわかります。正保3（1646）年に京都の書肆、中村五兵衛によって、木製活字を用いて出版されました。古活字版の中でも最末期に位置付けられる資料です。各種の研究書や目録類によっても他の伝本が確認できない資料で、今後の研究が待たれます。

<sup>17</sup> 生没年不詳。

準貴重書



[山の幸 下巻]  
 ・[海の幸 下巻]  
 <請求記号 WB1-22>  
 [石寿観秀国編]  
 [勝間龍水画]  
 [江戸中期]  
 2冊 (合1冊)  
 大きさ 29.1×20.0cm

『山の幸』下巻と『海の幸』下巻を合冊して1冊としたもの 色刷 袋綴 四つ目綴じ 後補表紙(青灰色地に白線散らし)  
 『山の幸』下巻 大坂屋平三郎・松本善兵衛 明和2 (1765) 年刊 四周単辺 郭内23.7×17.1cm 版心「△一(～廿九)」 挿絵25図(うち見開き1図) 植物名、昆虫名と図に因んだ発句を載せる  
 『海の幸』下巻 伊勢屋治右衛門・山崎金兵衛 宝暦12 (1762) 年刊 無辺無界 版心「△一(～廿八)」 挿絵32図(うち見開き9図) 魚介名と図に因んだ発句を載せる 獨菴買明の跋あり

絵入りの俳書『山の幸』下巻と『海の幸』下巻を合わせて1冊としたものです。現在は1冊に綴じられていますが、もともとは別に出版されました。

まず『海の幸』は宝暦12 (1762) 年に、勝間龍水 (1697-1773) が描いた魚介図の多色刷版画入りで出版されました。雲母刷やぼかしなどの技

法が用いられ、魚の鱗の質感まで見事に表現されています。多色刷としては錦絵が有名ですが、鈴木春信 (1725? -1770) の錦絵が登場した明和2 (1765) 年に先駆けて、このような完成度の高い色刷が行われていることに驚かされます。

続いて『山の幸』が3年後の明和2 (1765) 年に出版されました。『海の幸』と同じく、勝間龍



[海の幸 下巻] 16丁裏～17丁表



[海の幸 下巻] 刊記





〔山の幸 下巻〕 12丁裏～13丁表



〔山の幸 下巻〕 刊記

水が描いた草花・虫類の図に色刷が施されています。勝間龍水は家主を勤めるかたわら手習いの師匠をし、絵、書、篆刻、俳諧を嗜んだという人物で、専門の絵師ではありませんが、『海の幸』『山の幸』の正確な描写は、博物図鑑を思わせるほどです。

こうした絵入りの俳書が作られた背景には、幅広い層に俳諧が楽しまれていたことのほか、博物学の普及があったことも見逃せません。

本書は、喜多川歌麿（1753? -1806）や歌川広重（1797-1858）の動植物の絵にも、大きな影響を与えたとされます。江戸時代の絵入り俳書の傑作として、また、錦絵に先行する本格的な多色刷版画の例として、出版文化史上、重要な資料です。

国立国会図書館所蔵本は、上巻を欠きますが、比較的良い状態で保たれており、手摺れや褪色はあるものの、色や雲母もよく残されています<sup>18</sup>。特に『山の幸』は伝存数が少ないため、貴重な伝

本といえます。

（貴重書等指定委員会）

18 国立国会図書館は『海の幸』をもう1点所蔵する（請求記号197-121 上,下巻 2冊（合1冊）刊記なし）が、手摺れ、シミ、変色が目立つ。



今回紹介した資料のうち、『佛制比丘六物圖』『御文』『口傳書』『破邪禪集』『山の幸・海の幸』は、インターネットを通じてご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ>電子図書館  
>国立国会図書館デジタル化資料 古典籍資料  
(貴重書等) <http://dl.ndl.go.jp/#classic>

# 重要文化財指定資料紹介 『釋氏往來』



## 重要文化財



しゃくしおうらい  
釋氏往來

<請求記号 WA1-7>

[伝守覚法親王撰]

正安4 (1302) 写

1軸 縦30.2cm

(本紙は縦27.7cm)

書名は巻末による 奥書「正安四年十月廿四日於理趣房／以最悪筆書寫了 比興々々」<sup>1</sup> 卷子本 渋茶色格子縞模様表紙(後補) 題簽「釋氏往來」本文料紙：楮紙 巻頭欠訓点、振仮名を付す 校合書き入れあり 紙背に人物画ほか書き入れあり 全面裏打ち済

国立国会図書館所蔵『釋氏往來』は、平成24年4月20日の文化審議会答申に基づき重要文化

財に指定されました(それに伴って国立国会図書館分類表に従い、当資料の請求記号をWA15-19から、WA1-7(貴重書/国宝・重要文化財)に変更しました)。この資料の概要を紹介します。

『釋氏往來』の「釋氏」とは出家者、僧侶のこと、「往來」とは往復書簡の意味で、タイトルが示すように僧侶の書簡を集めて編成されています。こうした往復書簡集は「往来物」と呼ばれ、手紙の模範文例集や習字学習の手本として、また知識や教養を授けるための教科書として使われ、平安時代から江戸時代まで数多く作成されました。

『釋氏往來』が編纂されたのは平安時代末期から鎌倉時代初期と推定されています。集められた書簡は27組54通、差出月によって正月から十二月の順に配列されます。内容は、寺院や宮中にお



ける法会や祈祷、僧侶の昇進などに関わる事柄で、高位の僧侶間で、または僧侶と公家（朝廷の官人）との間で取り交わされた質問と回答の形式となっています。仁和寺の門跡であった守覚法親王（1150-1202。後白河天皇の皇子）が撰者と伝えられており<sup>2</sup>、仁和寺のような上級寺院における僧侶の教育に役立てられたものと考えられます。

国立国会図書館所蔵本は、巻頭の7通（正月3組6通、2月の冒頭1通）を欠きます<sup>3</sup>が、正安4（1302）年の書写奥書があります。このほかには鎌倉時代に遡る『釋氏往來』の写本は伝わっておらず、貴重な現存最古の写本です。

1 奥書の「理趣房」は「理趣寺」「理御殿」とも、「了」は「之」とも読まれる。  
 2 守覚に仮託した著作とする説もある。  
 3 国立国会図書館所蔵本の4通目、5通目の差出月が「正月」と見えるのは、「二」を後代の筆でなぞって「正」としたため、本来は「二月」の書簡である。

国立国会図書館では、これまで以下の所蔵資料が重要文化財に指定されています。

- 『満濟准后日記』（応永18～29年 満濟自筆）  
 <請求記号 WA1-1>
- 『天台山記』（平安時代後期写）  
 <請求記号 WA1-2>
- 『姓解』（景祐年間刊）<請求記号 WA1-3>
- 『銘尽』（応永30年写）<請求記号 WA1-4>
- 『師守記』（暦応2～応安7年 中原師守自筆）  
 <請求記号 WA1-5>
- 『宗家文書（対馬宗家倭館関係資料）』（江戸時代前期～明治時代初期写）  
 <請求記号 WA1-6-1～WA1-6-40>

※これら重要文化財は国立国会図書館ホームページでご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ>電子図書館  
 >国立国会図書館デジタル化資料 古典籍資料  
 (貴重書等) <http://dl.ndl.go.jp/#classic>

(利用者サービス部人文課)



# 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## コインの水族館

木谷浩著 成山堂書店刊

2011.5 136頁 27cm

<請求記号 KB351-J3>

世の中には、実に様々なものをコレクションする人がいる。本書の著者は、海洋生物が描かれたコインを蒐集している。著者の言葉を借りるなら、蒐集とは、「唯我独尊の世界」であり、個人の満足を至高として楽しむものであるとのこと。本書のタイトル『コインの水族館』から想像されるのは、コインの観賞本であろうか。いや、観賞本といった言葉であっさり語れるものではない。コインという限られたスペースに凝縮されている魚たちについて、その凝縮を解き放つかのごとく語られている。ページをめくれば、青、黄、桃、色彩豊かな魚のコレクションが目飛び込んでくる。魚が主役のコインもあれば、小さく刻印されているもの、海の一部として登場しているものもある。コインの中で漁師に釣り上げられそうになっている魚に「かわいそう」という思いを抱く著者。随所からコインを泳ぐ魚に対する愛情を感じる1冊である。

本書は、3部構成のもと、コインをテーマごとに細かく分類し、解説しており、コレクションの陳列に終わらない読みやすさがある。

第I章は、形状、材質、サイズといった複数の観点からコインが分類されている。コインは製造された時代や地域を反映しており、魚とコインの不思議な関係が語られている。ギリシャ時代の銀貨にはイルカと美貌の女神。アフリカに目を向ければ、ティラピア、エンジェルフィッシュ。魚を描くコインは世界中で発行されているとのこと。

第II章は、本書のハイライトともいえるべき部分で、

描かれた海洋生物の種類ごとにコインが紹介されている。イルカ、クジラ、ウミガメ……、最後には、「逃した魚」まで。色鮮やかなコインが見開きいっぱい並ぶ様子は、まさに「コインの水族館」である。サッカーワールドカップで



表紙

話題になったドイツの古いタコ、パウロ君のコインまであるのには驚いた。宝石入りのものなど実に自由で華やかなものがある一方で、歴史的な通貨の重厚感も忘れてはならない。イタリア、トスカーナのコインには、メディチ家の衰退後にトスカーナ大公国を継承したロートリンゲン家の2匹の魚紋章が使われている。単一色の金属面に精緻な像を彫る技術も見どころの一つである。解説を読み進めると、コインの見方が次第にわかるようになるだろう。

第III章は、コイン面を直接触らない、磨かないなどのコインの取り扱い、どのように外国のコインを蒐集するか、凹凸あるコインをきれいな写真に残すにはなど、蒐集家として知っておくべき基礎がまとめられている。著者の実体験に基づいた説明は実用的である。巻末には資料編として収録したコインのデータが掲載されており、発行国、描かれた海洋生物の種類、材質等を一覧できる。

直径数センチのコインは、金銭としての貨幣価値にとどまらず、ここまで人を魅了するのか。蒐集の世界の奥深さを教えてくれた本である。

(総務部総務課 <sup>いまわか</sup>今岡 <sup>なおこ</sup>直子)

※税込3150円。オンライン書店で入手可能。

## 平成24年度 国立国会図書館長と 都道府県立及び 政令指定都市立 図書館長との懇談会

7月5日、東京本館において標記懇談会を実施した。国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的とするこの会は今年で48回目となり、都道府県立および政令指定都市立図書館等71機関から77名が参加した。

文部科学省から図書館法の改正や図書館振興政策について報告があり、国立国会図書館からは、平成23年10月の組織再編、平成24年1月のサービス・リニューアル、東日本大震災の復興支援等の1年間の動きおよびオンライン資料収集に係る国立国会図書館法改正を含む最近のデジタルアーカイブの展開について報告した。

公共図書館からは、上村陽子新潟県立図書館副館長が同館におけるデジタルアーカイブの取組みについて、中村英俊岩手県立図書館長、加藤睦男宮城県図書館副館長、篠木敏明福島県立図書館長および伊藤益義仙台市民図書館長がそれぞれ各県・市における東日本大震災からの復興の現状について報告を行った。

報告後の質疑応答・懇談では、デジタル化資料の配信や東日本大震災アーカイブの構築等に関して、国立国会図書館に対する質問、期待が寄せられた。

## 平成24年度 国際子ども図書館 連絡会議

6月20日、国際子ども図書館において、第10回となる標記会議を開催した。15の機関・団体から15名が出席した。

会議では、まず国際子ども図書館から、平成23年度の活動および平成24年度の取組みについて報告した。続いて出席した各機関が東日本大震災復興支援を含むこの1年の取組みについて報告し、情報を共有した。被災地の図書館および子どもの読書に関する現状が報告され、図書館再建や復興に向けた継続的な支援の必要性、現地のニーズに合った支援を行うことの重要性などが指摘された。また文部科学省から、学校図書館に対する地方財政措置の拡充などの読書推進関連施策が報告された。

会議資料は国際子ども図書館ホームページ>研修・交流>関連機関との連携協力>国際子ども図書館連絡会議 (<http://www.kodomo.go.jp/study/cooperation/ilcl/index.html>) に掲載している。

## 法規の制定

【法律第32号】国立国会図書館法の一部を改正する法律

(平成24年6月22日公布)

国、地方公共団体、独立行政法人等以外の者の提供するオンライン資料（インターネット等を通じて発信される電子書籍、電子雑誌等）が出版物と同様に重要な文化財としての地位を占めるに至っている状況に鑑み、国立国会図書館が図書館資料の収集をより一層適正に行うため、国立国会図書館法（昭和23年法律第5号）が一部改正され、これらのオンライン資料を収集するための制度が設けられるとともに、附則において著作権法（昭和45年法律第48号）が一部改正され、オンライン資料の収集のための複製に係る規定が整備された。また、原子力損害賠償支援機構法（平成23年法律第94号）による原子力損害賠償支援機構の設立に伴い、同機構に国の諸機関と同様の出版物の納入等の義務を課すことが定められた。この法律は、平成25年7月1日から施行される。ただし、原子力損害賠償支援機構に係る部分は、公布の日から施行された。

この法律の施行による改正後の国立国会図書館法は、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載される。なお、この法律は、平成24年6月22日付けの官報に掲載されている。

## おもな人事

<異動>

※（ ）内は前職

平成24年6月11日付け

司書監 電子情報部付

(主幹 調査及び立法考査局文教科学技術調査室付)

柳 与志夫



## お知らせ

### ■ 国立国会図書館 データベースフォーラム

「国立国会図書館データベースフォーラム」は、国立国会図書館の作成するデータベースやコンテンツの内容、最新情報、知っていると便利な使い方を、デモンストレーションを交えながらご紹介する催しです。

フォーラム当日には、希望者を対象に館内見学会を実施します（事前申込みが必要です）。入場は無料です。図書館関係者はもとより、ご関心をお持ちのみなさまのご参加をお待ちしています。



■ 関西館 開館10周年記念関連行事として開催します。

○日 時 9月19日（水）【休館日】13:00～17:00

\*館内見学は12:20～、17:10～の2回（各30分程度）

○会 場 関西館 大会議室

○定 員 300名（館内見学は各回80名）※先着順

○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 総務課 電話 0774（98）1247（直通）

■ 東京本館

○日 時 10月17日（水）【休館日】13:30～16:30

\*館内見学は16:45～の1回（30分程度）

○会 場 東京本館 新館講堂

○定 員 300名（館内見学は45名）※先着順

○お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 企画課 電話 03（3506）3309（直通）

■ お申込方法

ホームページ上の「データベースフォーラム参加申込みページ」からお申し込みください。関西館は申込受付中です。東京本館は9月11日（火）から受付を開始します。

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/dbf2012.html>

国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）> イベント・展示会情報  
> 国立国会図書館（NDL）データベースフォーラム

## お知らせ

### ■ 国立国会図書館関西館 開館10周年記念講演会 (山室信一氏・陶器二三雄氏) のご案内



国立国会図書館関西館は、本年10月に開館10周年を迎えます。

関西館は、年々増加する図書館資料を収蔵するための大規模書庫を確保するとともに、情報通信技術の急速な発展に対応した電子図書館サービスの拠点として設置され、これまでに様々なサービスを行ってきました。

関西館の10年のあゆみと活動を多くの方に知っていただくために、講演会、展示会、シンポジウムなどの記念行事を予定しております。詳細は国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) でも随時お知らせします。

記念行事の一つとして、京都大学人文科学研究所教授の山室信一氏による講演会と、関西館の設計者である陶器二三雄氏による講演会をそれぞれ行います。入場は無料です。ぜひご参加ください。

#### ① 「私の図書館巡歴と関西館―史料に導かれた連鎖視点への歩み」

- ▶ 講師 山室信一氏 (京都大学人文科学研究所教授)
- ▶ 日時 10月6日 (土) 午後2時～4時

#### ② 「私のめざす公共建築―国立国会図書館関西館、森鷗外記念館の経験を経て」

- ▶ 講師 陶器二三雄氏 (株陶器二三雄建築研究所代表)
- ▶ 日時 10月19日 (金) 午後2時～4時
- ▶ 講演終了後、館内施設の見学会があります。

#### ※ ①、②共通

- 場 所 関西館 第一研修室
- 定 員 各日先着80名

#### ○お申込方法

9月3日 (月) から受付を開始します。

10月4日 (木) 17:00までに、次のいずれかの方法でお申し込みください。

定員に達した時点で受付を終了します。

[ホームページ]

ホームページの参加申込みフォームからお申し込みください。

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/index.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) > イベント・展示会情報



## お知らせ

---

[ファクシミリ]

次の事項を明記の上、下記FAX番号あてにお申し込みください。

①講演会名「山室氏講演会」または「陶器氏講演会」、②氏名（ふりがな）、

③FAX番号、④電話番号（日中のご連絡先）

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 総務課

FAX 0774 (94) 9106

電話 0774 (98) 1224 (直通)

国立国会図書館関西館開館10周年記念として以下のイベントの開催を予定しております。詳細は、改めて本誌上でご案内いたします。

○10周年記念展示会「関西の図書館100年、関西館の10年」

平成24年10月1日（月）～10月31日（水）（日曜日、国民の祝日・休日、第3水曜日除く） 関西館 大会議室

○10周年記念国際シンポジウム

基調講演：「図書館のE戦略（e-Strategy）を進化させる」（仮題）

講演者：Sean Martin氏（英国図書館電子戦略情報システム部構築開発長、2011年国際インターネット保存コンソーシアム（IIPC）議長）

パネルディスカッション：「E戦略で図書館の未来を切り開く」（仮題）

パネリスト：Sean Martin氏、図書館関係有識者

平成24年11月9日（金） 関西館 大会議室





## お知らせ

### ■ 国際子ども図書館講演会 「天沢退二郎さんに聞く — 21世紀の宮沢賢治—」

国際子ども図書館は、展示会「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」の中で、宮沢賢治の作品と業績を紹介するコーナーを設けます（平成24年8月21日～平成25年2月24日）。

展示にあわせて、宮沢賢治研究の第一人者である天沢退二郎氏を講師として迎え、講演会を開催します。天沢氏には、宮沢賢治作品と自身の児童文学作品との関わりについてお話いただきます。また、講演の後、本展示会監修者の宮川健郎氏との対談を行います。入場は無料です。この講演会は、上野の山文化ゾーン連絡協議会主催「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の参加行事です。

○日 時 10月6日（土）14:00～16:30（予定）

○会 場 国際子ども図書館ホール（3階）

○プログラム 「天沢退二郎さんに聞く—21世紀の宮沢賢治—」

講演：可能性の宝庫としての「宮沢賢治」

天沢退二郎氏（詩人、児童文学作家、宮沢賢治研究者）

対談：賢治、光車、そして、オレンジ党

天沢退二郎氏、宮川健郎氏（本展示会監修者、武蔵野大学教授）

○対 象 中学生以上（定員100名）

○お申込方法 9月20日（木）までに次のいずれかの方法でお申し込みください（必着）。  
申込多数の場合は抽選となります。

[往復はがき] 「往信用裏面」に、(1) 住所、(2) 氏名（ふりがな）、(3) 参加人数（1枚のはがきで2名まで。2名の場合はそれぞれの氏名を必ず明記してください。）、(4) 電話番号、(5) 希望する講演番号「3番」と演題「天沢退二郎さんに聞く—21世紀の宮沢賢治—」を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を、ご記入の上、下記へお送りください。

〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6

台東区役所文化振興課内「上野の山文化ゾーン」係

[ホームページ] 電子申請の案内に従い、お申し込みください。

U R L [http://www.city.taito.lg.jp/index/bunka\\_kanko/torikumi/uenonoyama/koenkai.html](http://www.city.taito.lg.jp/index/bunka_kanko/torikumi/uenonoyama/koenkai.html)

○お問い合わせ先 国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課  
電話 03 (3827) 2053（代表）



## お知らせ

### ■ 平成24年度 レファレンス研修

国内の図書館においてレファレンス業務を担当する中堅職員に対し、レファレンスサービスを行う上での問題解決に役立つ知識を取得し、実務能力の向上を図ることを目的として、次のとおり平成24年度レファレンス研修を実施します。

- 日 時 11月15日(木)、16日(金)
- 会 場 東京本館 新館3階研修室
- 対 象 応募の時点でレファレンス業務に従事し、かつ同業務経験5年以上の公共図書館、大学図書館又は専門図書館の職員等。  
\*受講者には、事前に課題を課すほか、事前調査票に回答していただきます。
- 定 員 24名。1機関からの参加は原則として1名。応募多数の場合、過去に参加のない機関や、前回の参加から3年以上経過している機関を優先します。
- 内 容 次のテーマについて講義と演習を行います。
  - ①レファレンスサービスの理論
  - ②人文科学分野および経済社会分野のレファレンス事例の解説
  - ③効果的なパスファインダーの作成方法
  - ④レファレンスサービスに関する研修計画の作成
- 講 師 大庭一郎氏(筑波大学図書館情報メディア系講師)、当館利用者サービス部職員
- 参 加 費 無料。ただし、旅費・滞在費等は受講者の負担とします。
- お申込方法 ホームページに掲載している申込書にご記入の上、電子メール、FAXまたは郵送で9月14日(金)までにお申し込みください(必着)。
- お申込み・お問い合わせ先
  - 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
  - 国立国会図書館 関西館 図書館協力課 研修交流係
  - 電子メール training@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9117
  - 電話 0774 (98) 1445 (直通) 担当: 篠田、松井

※ 申込書および研修内容の詳細は、ホームページをご覧ください。  
国立国会図書館ホームページ>図書館員の方へ>図書館員の研修  
URL <http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/index.html>

## お知らせ

### ■ デジタル化資料の館内追加提供およびインターネット公開について

7月から、デジタル化された自然科学分野の雑誌約8万点と戦前期刊行図書約1万7千点が、国立国会図書館施設内で新たに閲覧できるようになりました。

また、8月13日から、これまで施設内のみで提供してきたデジタル化資料のうち、著作権処理の終了した古典籍427点、博士論文24点、図書約1万6千点が新たにインターネットから利用できるようになりました。

現在、デジタル化した資料の提供総数は、約221万1千点（うち、インターネットで提供するものは約41万7千点）です。どうぞご活用ください。

#### ○平成24年7・8月 館内提供資料およびインターネット公開資料

提供開始日	追加提供資料・点数	提供URL	アクセス範囲
7月19日	雑誌(自然科学分野) 約8万点	[国立国会図書館 デジタル化資料] <a href="http://dl.ndl.go.jp">http://dl.ndl.go.jp</a>	館内限定
7月26日	図書(戦前期刊行図書) 約1.7万点		館内限定
8月13日	古典籍 427点 博士論文 24点		インターネット 公開
8月13日	図書 約1.6万点	[近代デジタルライブラリー] <a href="http://kindai.ndl.go.jp">http://kindai.ndl.go.jp</a>	インターネット 公開

#### ○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 電子化資料提供係

電子メール [dl@ndl.go.jp](mailto:dl@ndl.go.jp)



『西水行吟』 1897年 島木赤彦自筆本  
高野辰之旧蔵書



『礼文島』 茶木伝九郎著 1912年



## お知らせ

### ■ 公立図書館への 歴史的音源配信の提供を 本格的に実施

国立国会図書館は、7月2日（月）から「歴史的音源」の公立図書館への配信提供を本格実施しています。これに伴い、新たに配信提供を希望する公立図書館（歴史的音源配信参加館）の参加申請を受け付けています。

「歴史的音源」は1900年から1950年前後に国内で製造されたSP盤などに記録された貴重な音源です。現在、一般のインターネット環境では約600音源が利用できます。歴史的音源配信参加館になると、約2万6千の全音源（平成24年7月現在）をご利用いただけます。奮ってお申し込みください。

#### ○お申込方法

「公立図書館への歴史的音源の配信提供に関するページ」に掲載されている参加申込書および「PC・ネットワーク環境チェックリスト」を電子メールでお送りください。

#### ○「公立図書館への歴史的音源の配信提供に関するページ」

URL <http://dl.ndl.go.jp/ja/rekion4Lib.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>電子図書館>デジタル化資料>歴史的音源

>公立図書館への歴史的音源の配信提供に関するページ

#### ○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 電子化資料提供係

電子メール [rekion4Lib@ndl.go.jp](mailto:rekion4Lib@ndl.go.jp)



## お知らせ

### ■ 本の万華鏡（第10回） 「大正デモクラシーと メディア」



今年は大正元（1912）年からちょうど100年に当たります。大正時代は、「大正デモクラシー」という言葉に象徴されるように自由主義、民主主義的な風潮が高まり、政治の面では藩閥批判や普通選挙運動など大衆の政治参加を求める動きが活発化しました。また、新聞・雑誌で風刺漫画が庶民の人気を得たことやレコード・映画など新しいメディアの発展に象徴されるように、メディアと結び付いた形で大衆文化が華やかに興隆した時代でもあります。その意味で、「明治」と「昭和」の間に挟まれて埋もれがちな「大正」は、日本の近現代史における重要な時代の転換期でした。

7月18日から提供を開始したミニ電子展示「本の万華鏡」第10回では、このように大衆が時代の主役として登場した、「大正デモクラシー」とその風潮を支えたメディアの発達を中心に紹介します。第1章では、当時の世相を表した風刺漫画をご覧ください。第2章では、政治家やオピニオンリーダーたちが、いかにメディアを活用したのかに焦点を当てます。そして第3章では、この時期に発達した音声・映像メディアと大衆への浸透について取り上げます。

○URL <http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>



「蓄音器に候演説を吹込む」  
「大隈侯一言一行」より  
（市島謙吉著述 高須梅溪  
執筆 早稲田大学出版部  
大正11年）



「大正七年米騒動」  
「明治大正の文化」より  
（博文館 昭和2年）



「普選は議会の遊び道具ではない」  
「時事漫画」より  
（時事新報社 大正12年1月14日）  
※当該資料はマイクロフィルム（白黒）  
でのご利用になります。

## お知らせ

### ■ 新刊案内

#### 国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第252号 A4 204頁

季刊 1,890円 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-733-7)

<特集：原子力と再生可能エネルギーを巡る動き>

- ・韓国における新しい原子力安全委員会
- ・使用済燃料及び放射性廃棄物管理に関する欧州原子力共同体の枠組み指令
- ・ロシアの放射性廃棄物管理制度—放射性廃棄物管理法を中心に—
- ・中国における放射性廃棄物の管理
- ・ドイツの2012年再生可能エネルギー法

<主要立法（翻訳・解説）>

- ・アメリカの情報機関と連邦議会の監視機能の強化—2010年度以降の情報機関  
授權法—
- ・アメリカの州におけるいじめ対策法制定の動向
- ・イギリスの2010年憲法改革及び統治法（2）—条約の批准—
- ・フランスにおける電子書籍の価格規制—電子書籍と再販制度について—
- ・ドイツにおける介護休業制度の拡充—家族介護時間法の制定—



レファレンス 737号 A4 60頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・農業多様性と自由貿易
- ・ドイツの選挙制度改革
- ・宮城県の復興まちづくりの現状と課題（現地調査報告）



レファレンス 738号 A4 83頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・学校安全の新たな取組みと展望
- ・我が国の電子書籍流通における出版界の動向と政府の役割
- ・公務員人件費をめぐる議論
- ・国連平和構築委員会の動向





## お知らせ



カレントアウェアネス 312号 A4 28頁 季刊 420円

- ・多角的デジタルアーカイブズのVR-ARインターフェイスデザイン手法
- ・近年の英国における図書館のアドヴォカシー

### <動向レビュー>

- ・図書館はデジタルカメラによる複写希望にどう対応すべきか
- ・EUにおける孤児著作物への対応
- ・ウェブスケールディスカバリの衝撃
- ・日本の公共図書館の電子書籍サービス—日米比較を通じた検証—



NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録 2012年1号

(1980年以前～2012年3月収録) 年2回更新

年間契約価格42,000円、初年度のみ63,000円(検索ソフト込み)

参加館は244館(国立国会図書館、点字図書館86館、公共図書館等157館)

収録レコード472,057件

-----  
入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

## C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>  
**Music record trade catalog**  
 Past and present of music record companies from the Taisho to the Showa era
- 04 Libraries now in the areas stricken by the Great East Japan Earthquake
- 05 After the Great East Japan Earthquake: building new collaboration
- 09 Tohoku University Library tour  
 Damage from the Great East Japan Earthquake and learning how to prepare against disaster
- 11 Status of recovery from the Great East Japan Earthquake  
 Report from the municipal libraries in Miyagi prefecture
- 16 Materials recently designated as rare books : 46th committee on designation of rare books
- 26 Material recently designated as a national important cultural property : *Shakushiōrai*
- 15 <Tidbits of information on NDL>  
 Ensuring IT security in the NDL
- 28 <Books not commercially available>  
 ○ *Koin no suizokukan*
- 29 <NDL News>  
 ○ Conference with directors of prefectural and major municipal libraries in FY2012  
 ○ Liaison conference of the International Library of Children's Literature in FY2012  
 ○ Rules & regulations  
 ○ Changes in personnel
- 31 <Announcements>  
 ○ NDL Database Forum in FY2012  
 ○ Two lecture meetings, by Prof. Shinichi Yamamuro and by Mr. Fumio Toki, for the 10th anniversary of the Kansai-kan  
 ○ Lecture at the International Library of Children's Literature "Asking Mr. Taijiro Amazawa: Kenji Miyazawa in the 21st century"  
 ○ Reference training program FY2012  
 ○ New digitized materials available inside the NDL and on the Internet  
 ○ Historical Recordings Collection now provided to public libraries on a regular basis  
 ○ Kaleidoscope of Books (10) "Taisho Democracy and Media"  
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成24年8月号 (No.617)

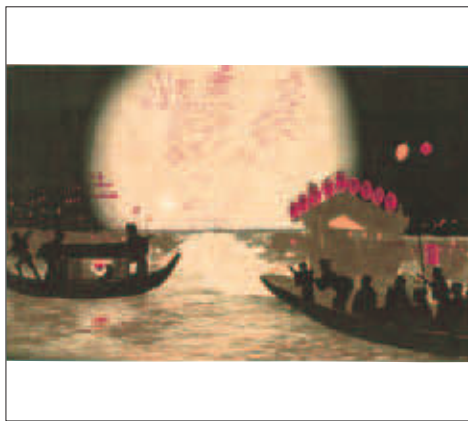
発行所 国立国会図書館  
 編集責任者 田中久徳  
 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
 電話 03 (3581) 2331 (代表)  
 F A X 03 (3597) 5617  
 E-mail geppo@ndl.go.jp

平成24年8月20日発行 定価525円  
 (本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会  
 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
 電話 03 (3523) 0812 (販売)  
 F A X 03 (3523) 0842  
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「[兩國花火之圖]」  
小林清親畫 [明治13 (1880) 頃]  
1枚 19.8×31.5cm  
〔清親畫帖〕＜請求記号 寄別1-9-2-3イ＞所収

## 国立国会図書館月報

平成24年8月20日発行 (毎月1回20日発行)  
(8月号通巻617号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525円 (本体 500円)